

生涯学習かわら版

北信地区活動だより

～「人・つながり・地域」づくりを通じたウェルビーイングの実現～

令和5年12月1日

北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 菅原 勇介

北信教育事務所の生涯学習課では「社会教育」「スポーツ振興」「社会人権教育」を推進しています。今回はコーディネーター研修会の様子を紹介します。

コミュニティスクールコーディネーター研修会を開催しました

11月28日(火) 県立長野図書館3階 信州・学び創造ラボにてコーディネーター研修会が行われました。当日は地域コーディネーターの方やボランティアスタッフの方、教職員など30名程の参加があり、コーディネーターとして運営協議会(委員会)をどのように活性化させていくのかをテーマに、一般社団法人あそび心BASE アフタフ・バーバン信州 理事長の清水洋幸さんを講師に学習をしました。今回の研修はオープンスペースで実施することにもこだわりましたが、会場の設えによっても、会の雰囲気は大きく変わります。今号ではその様子をお伝えします。

○清水洋幸さんの話より

- ・コミュニティスクールは生きる力の土台、人や物事、地域や社会に前向きに向かっていく礎になるもので、学校教育・社会教育・家庭教育がバランスをとって融合していくというイメージ。
- ・運営委員会(協議会)に限らず、参加者の意見を引き出すには発言しやすい環境をつくる必要があり、安心感や信頼感が重要になる。
- ・コーディネーターのみなさんはよいところだけでなく、マイナス面もひらくことが必要で、マイナス面もひらくことは安心感や、参加者が自分を発揮する「余白」ともなる。
- ・否定的に考えることが悪いということではない。でも「いいねえ。それでは～しましょう」という姿勢でいたほうが、より新しいアイデアが生まれる。

信州・学び創造ラボのオープンな雰囲気の中で行われた研修



講師：清水洋幸さん



参加者同士が「ひらき」率直な意見交換が行われました。

ファシリテーションとは？

◎促進する、引き出すの意味

- ▶場のデザイン ゴールの設定
- ▶意見を引き出す 発言しやすい環境
- ▶整理し構造化する 論点を絞る
- ▶まとめる 合意形成を行う

安心感・信頼感が重要！！

一人一人がひらかれて、つながっていくために
～表現コミュニケーション活動の視点から～

▶前提：人間は誰しも、その人らしさ・持ち味、魅力等を持っている。

↓
それらが発揮され、交わり、つながっていくためには

- ▶安心感 (失敗しても人と違ってOK!ここに居ていい!)
- ▶温かな場 (肯定的な場)
- ▶自分を発揮する機会や場がある (自分を発揮する余白がある)
- ▶ファシリテーター自身がひらいている (プラス面マイナス面ひらいている)

【清水さん作成 当日資料より抜粋】

○参加者が学んだことや今後いかしたいこと

- ・なかなか思い通りにいかず一歩踏み出せない状況でいました。それに恐れず、まず行動してみることが大切だと感じました。
- ・色々な方と接し人を浴びることにより、子どもは育つということが勉強になりました。
- ・運営委員会改善の案をと思い参加しました。課題をどうするかを中心に考えていましたが、委員同士のつながりや開放感なくしての発言は無理かと改めて思いました。会議前にほぐす段階を入れて空気を柔らかくしてから委員会に入りたいと思いました。
- ・運営委員が学校に来る機会を増やしたり、職員や子どもとつながるような時間を設定したりすることが大事だと思いました。

コミュニティスクールの研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡してください。ぜひ視察にも行かせてください。

■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1 担当：菅原勇介

Tel:026-234-9552 E-mail: hokushinkyo@pref.nagano.lg.jp

